

横浜市感染症発生動向調査委員会報告

今月のトピックス

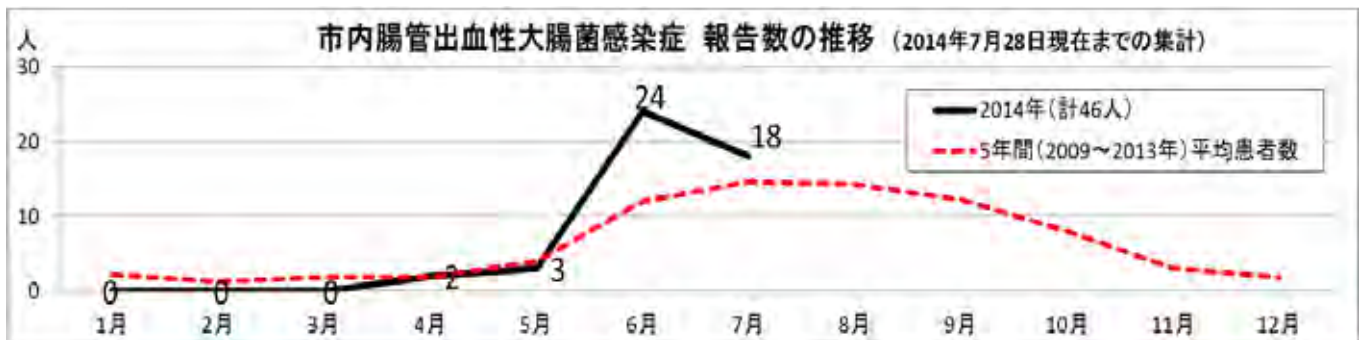
- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が増えています。
- 伝染性紅斑が流行しています。
- ヘルパンギーナが流行しています。

全数把握の対象

【7 月期に報告された全数把握疾患】

腸管出血性大腸菌感染症	18 件	侵襲性髄膜炎菌感染症	1 件
レジオネラ症	6 件	侵襲性肺炎球菌感染症	2 件
アメーバ赤痢	6 件	梅毒	2 件
後天性免疫不全症候群 (HIV 感染症を含む)	4 件	風しん	1 件
侵襲性インフルエンザ菌感染症	1 件		

- 1 **腸管出血性大腸菌感染症**: 計 18 件 (O157VT1VT2 10 件、O157VT1 1 件、O157VT2 3 件、O157VT 型不明 1 件、O111VT1VT2 2 件、O121VT2 1 件) の報告がありました。原因については現在調査中ですが、いくつかの事例では家族内での 2 次感染が見られています。本症の今年の報告数は、6 月は過去 5 年間の平均を上回り、7 月も 7 月 28 日現在の集計時点で上回っています。過去 5 年間の推移によると、8 月から 9 月にかけても報告数が多いことが考えられ注意が必要です。特に抵抗力の弱い乳幼児や高齢者で重症化することがあります。家庭内での 2 次感染予防には手洗いが重要です。さらに、下痢症状がある人は専用のタオルを使うなど、他の人と使うタオルを別にしましょう。トイレは常に清潔に掃除し、ドアノブ・水洗レバー・電気スイッチなど手の触れるところは、特に念入りにきれいにしましょう。全国的には毎年保育施設における集団発生が多くみられており、オムツ交換時の手洗い、園児に対する排便後・食事前の手洗い指導の徹底が重要です。また、簡易プールなどの衛生管理にも注意を払う必要があります。さらに、過去には動物とのふれあい体験での感染と推定される事例も報告されており、動物との接触後の十分な手洗いや消毒も重要です。



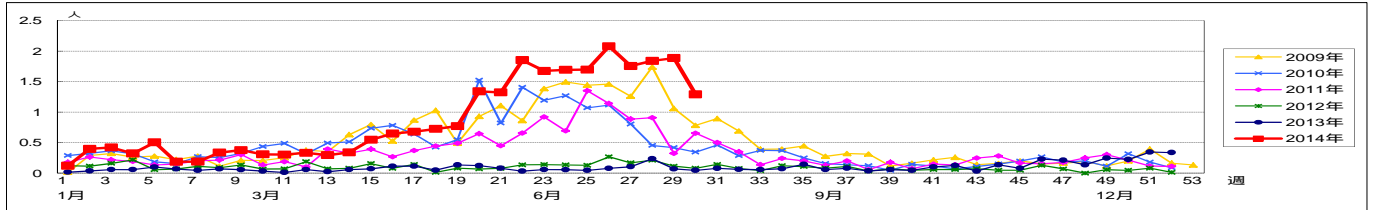
- 2 **レジオネラ症**: 肺炎型 6 件の報告があり、現在感染経路等調査中です。
- 3 **アメーバ赤痢**: 腸管アメーバ症 6 件 (経口感染 2 件、同性間性的接触による感染 1 件、異性間性的接触による感染 1 件、感染経路等不明 2 件) の報告がありました。
- 4 **後天性免疫不全症候群 (HIV 感染症を含む)**: AIDS 3 件、無症状病原体保有者 1 件の報告がありました。そのうち、異性間性的接触による感染が 3 件、同性間性的接触による感染が 1 件でした。
- 5 **侵襲性インフルエンザ菌感染症**: 90 歳代の報告が 1 件ありました。
- 6 **侵襲性髄膜炎菌感染症**: 70 歳代の報告が 1 件ありました。患者は集団生活はしておらず、周囲に他の患者は確認されませんでした。
- 7 **侵襲性肺炎球菌感染症**: 70 歳代の報告が 2 件あり、いずれも予防接種歴は不明でした。
- 8 **梅毒**: 無症候期の報告が 2 件あり、1 件は同性間性的接触による感染が推定され、もう 1 件は感染経路等不明でした。
- 9 **風しん**: 30 歳代女性の検査診断例の報告が 1 件あり、予防接種歴は不明でした。

定点把握の対象

平成 26 年 週 - 月日対照表	
第 26 週	6 月 23 日 ~ 29 日
第 27 週	6 月 30 日 ~ 7 月 6 日
第 28 週	7 月 7 日 ~ 13 日
第 29 週	7 月 14 日 ~ 20 日
第 30 週	7 月 21 日 ~ 27 日

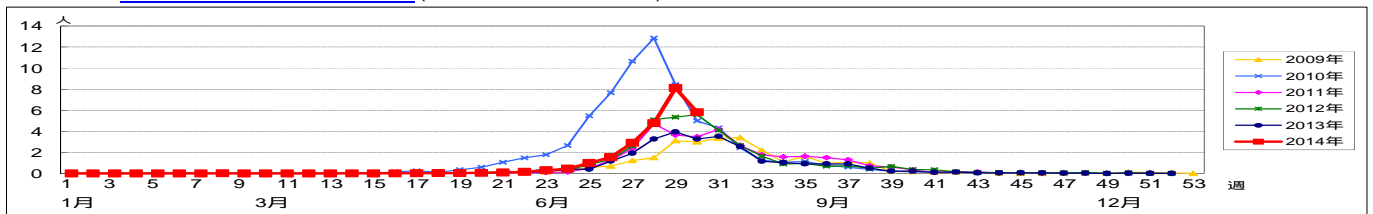
- 1 **伝染性紅斑**:第 26 週に市全体で定点あたり 2.08 と警報発令基準値 (2.00)を上回って以降、警報レベル(警報解除基準値 1.00)が継続しています。ただ、第 30 週は 1.29 と減少傾向に転じました。区別では 9 区で警報レベルとなっています。

[伝染性紅斑について](#)(国立感染症研究所)
[横浜市感染症臨時情報:伝染性紅斑](#)

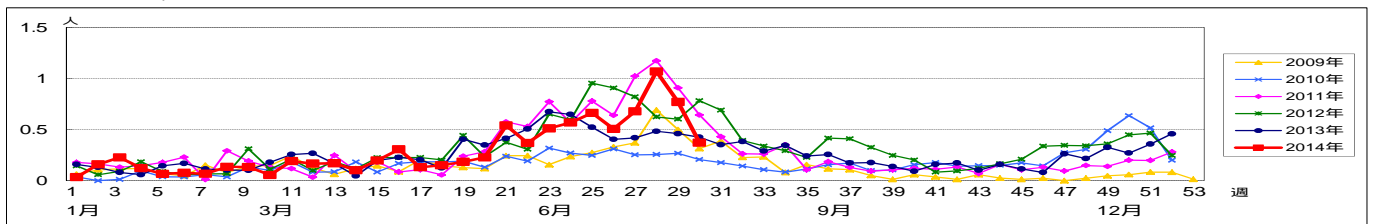


- 2 **ヘルパンギーナ**:第 27 週から急激に報告が増加し、第 29 週は 8.10 と警報発令基準値 (6.00)を上回りました。第 30 週は 5.81 と減少に転じましたが、警報レベル(警報解除基準値 2.00)が継続しています。区別では 10 区で警報レベルとなっています。感染予防では、患者との密接な接触を避け、流行時にうがいや手洗いをしっかりと行うことが重要です。特に患児のおむつを替えた後などは、よく手を洗いましょう。

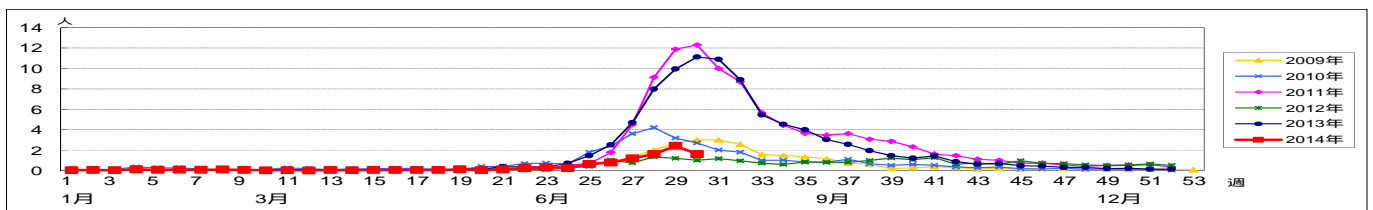
[ヘルパンギーナについて](#)(横浜市衛生研究所)



- 3 **咽頭結膜熱**:第 30 週は市全体で定点あたり 0.37 と減少しましたが、保土ヶ谷区 1.20 で警報レベルが継続しています。



- 4 **手足口病**:第 30 週は市全体で定点あたり 1.62 と、前週から減少しました。ただ、磯子区 8.75、港南区 4.40 で警報レベルとなっています。



- 5 **性感染症**:6 月は、性器クラミジア感染症は男性が 21 件、女性が 15 件でした。性器ヘルペス感染症は男性が 8 件、女性が 6 件です。尖圭コンジローマは男性 4 件、女性が 1 件でした。淋菌感染症は男性が 20 件、女性が 0 件でした。
- 6 **基幹定点週報**:マイコプラズマ肺炎は第 26 週 0.75、第 27 週 0.00、第 28 週 0.33、第 29 週 0.00、第 30 週 0.00 と落ち着いています。感染性胃腸炎(ロタウイルス)は第 26 週 0.50 以降、第 30 週まで報告はありません。クラミジア肺炎、細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎の報告はありませんでした。
- 7 **基幹定点月報**:6 月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 4 件、薬剤耐性緑膿菌感染症 1 件、薬剤耐性アシネトバクター感染症 1 件の報告がありました。ペニシリン耐性肺炎球菌感染症の報告はありませんでした。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
 横浜市衛生研究所ホームページ URL:<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/>